

評価基準

- ◎ 目標に向けおおむね順調に進捗している
- 目標に向け進捗しているが、更なる取組が求められる
- △ 目標に向けた取組が不十分である

成果指標	男女共同参画に関する意識の普及度(10ページ)
評 価	◎
評価の理由	令和6年度における男女共同参画に関する意識の普及度は81.2%と、目標値である76%を大きく上回り、昨年度の77.4%からも3.8%上昇した。これまでの各分野における取組の成果が着実に現れており、評価に値する。また、過去最高を記録したことも、目標達成に向けた努力が実を結んだものと認められる。 一方で、アンケート調査において一般成人の回答者数が少ないことや、職員の回答が多く含まれていることから、対象や方法によって変動する可能性があるため、今後も適正なアンケートの実施に努めるとともに、継続的な取組が求められる。
市の対応	

外部評価書（施策）（確定版）

課題Ⅰ 男女共同参画に関する意識の普及と向上

施 策	(1)男女共同参画に関する意識の啓発(12～18ページ)
評 価	◎
評価の理由	7事業すべてにおいてA評価を達成し、目標値を大きく上回った事業もあり、男女共同参画の普及の推進がされていると評価する。 各課や関連組織が連携し、様々な媒体を活用した情報発信や講演会の開催がされており、各世代へ積極的にアプローチされた成果が現れている。 一方で、公民館や「ジェフリーすずか」における啓発事業等では、女性の参加が多く、男性の参加が少ないという課題がある。男性の参加促進や意識啓発を進める工夫が必要である。
市の対応	

課題Ⅱ あらゆる分野における男女共同参画の推進

施 策	(1)政策・方針決定過程における男女共同参画(19～23ページ)
評 価	○
評価の理由	鈴鹿市における女性委員の登用率は全国平均を上回っており、一定の成果が認められる。 一方で、自治会等における女性役員の登用については、任意団体であることから啓発活動に苦慮している様子がうかがえる。全体的には、個々の事業において活動指標の設定などに工夫が見られ、一定の評価はできるが、今後は自治会や地域づくり協議会の役員における女性登用に向けて、啓発活動を一層強化していただきたい。
市の対応	

施 策	(2)就労における男女共同参画(24～37ページ)
評 価	○
評価の理由	就労における男女共同参画については、目標値を大きく超える施策もあり、全体として良好に推移していると評価される。特に、市の男性職員の育児休業取得者数が増加傾向にあり、周知徹底や意識啓発が図られている点が成果として評価できる。また、休暇の取得(育児・介護等)をしやすい環境づくりや、男女双方を対象とした働きやすい職場環境の整備が引き続き求められる。 女性消防職員数の増加については、女性が働きやすい職場環境の整備を更に進めていただきたい。 女性農業者の確保に向けた取組については、農業で生活を支えるための粘り強く、工夫のある施策展開を期待する。
市の対応	

施 策	(3)地域における男女共同参画(38～41ページ)
評 価	○
評価の理由	地域活動への参加促進に向けた啓発や事業実施は評価できる。特に、災害対応における女性の視点の重要性に着目し、地域づくり協議会において防災訓練などを実施している点は、今後更なる広がりが期待される。 一方で、誰もが参画できる地域づくりの推進や消防団員の確保については、更なる啓発と取組強化が求められる。女性消防団員の負担軽減を図っていることや、女子学生団員の活用など、継続的な活動を目指している点を評価する。 全体としては、既存の枠組みに女性参画の視点を取り入れる取組は効果的であり、人手不足という課題を抱えながらも、地域における男女共同参画の更なる発展が期待できる。
市の対応	

施 策	(4)家庭における男女共同参画(42～49ページ)
評 価	○
評価の理由	各課が子どもから高齢者までを対象に様々な事業を展開していることは評価できる。 全体としては、情報発信や提供の取組は継続されており、徐々に効果が上がることが期待される。 考え方の変容を促す学習機会の提供として男性の参画を促す事業については、未だ目標に届いていない状況にあるので、引き続き工夫をして事業を推進していただきたい。 一方で、父親向けの情報発信や認知症サポーター講座への参加など、一定の成果が見られるものの、依然として家事育児参画に関連する事業の男性の参加率が上がらないことが課題となっている。 公民館の取組については、目標を達成できていないため、講座内容の改善など、さらなる工夫が求められる。
市の対応	

施 策	(5)教育における男女共同参画(50～57ページ)
評 価	○
評価の理由	教育における男女共同参画は概ね順調に推移している。特に、学校での男女平等・共同参画の研修や人権学習が目標の100%を達成しており、三重県の「ダイバーシティ構想」とリンクした取組として継続していただきたい。 一方で、児童生徒のSNSトラブルへの対応が課題となっているが、小中学校への出前講座の実施件数は減少するも出前講座以外の学習機会も活用するなど工夫がされており、今後も展開を期待する。職場体験学習の実施など、企業の協力を得た取組も評価する。 メディア・リテラシーの向上については、現代の大きな課題であり、時代の変化に即した様々な方法での取組に期待する。
市の対応	

課題Ⅲ ジェンダーの視点に立った人権尊重と性差に応じた健康支援

施 策	(1)自尊感情と人権意識の向上(58～65ページ)
評 価	◎
評価の理由	女性の生きづらさを個人の問題ではなく社会問題と捉え、電話相談等の支援を他機関と連携するなど、事業内容を工夫しながら実施している。 一方で、まだ支援につながっていない相談者も少なくないため、相談窓口の周知促進が求められる。 全体として、自尊感情を高める相談事業の充実は、乳児の全戸訪問等をはじめ、適切な対応がなされており評価できる。 また、主任児童委員の研修の参加人数減少については課題としてあるが、負担軽減のためオンラインでの開催など研修形態の見直し等、さらなる工夫が期待される。 今後もDV等相談事業の対応においては、より一層の慎重な取組に配慮いただきたい。
市の対応	

施 策	(2)生涯にわたる心身の健康に関する啓発(66～70ページ)
評 価	◎
評価の理由	生涯にわたる心身の健康に関する啓発については、全ての事業で目標値が達成され、さらに目標値を大幅に上回る成果が複数の事業で見られる点が高く評価される。 特に、更年期に関する各種講座はきめ細かな内容が評価され、小中学校の生徒を対象にした健康出前講座では医師や保健師と連携し、継続した取組により大きな実績を上げている。また、命の大切さや尊さ等を学ぶ命の学習も評価する。これらの取組は、男女が互いに尊重し合う関係を築く基盤として重要であり、一層多くの学校での実施が期待される。 一方で、性に関する正しい知識の普及については、LGBTQなど性の多様性を含む本質的な教育支援が求められ、より本質的な指導・啓発が必要である。
市の対応	